

今回のみいよく通信では、「令和6年度 魅力ある学校づくり地域協議会 関係者研修会Ⅱ」の内容を中心にお伝えします。

「令和6年度 魅力ある学校づくり地域協議会 関係者研修会Ⅱ」の報告

日 時：令和7年2月21日(金)13:30～16:00
 場 所：宇都宮市教育センター 1階 コミュニティホール
 参加者数：22名(うち会長5名, 地域学校協働活動推進員12名, 魅力協の委員・その他5名)
 講 義：地域の未来をつくるのは子どもたち, 子どもたちを地域の力で育てよう
 ～子どもたちをまん中に地域と学校と一緒にできることを考えてみよう～
 講 師：国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
 コーディネーター 大坪 直子 氏

○ はじめに

1980年 神奈川県立高校勤務(～2017年)

2017年～ (一社)ふらっとカフェ鎌倉 理事

(公財)さわやか福祉財団 ボランティア職員

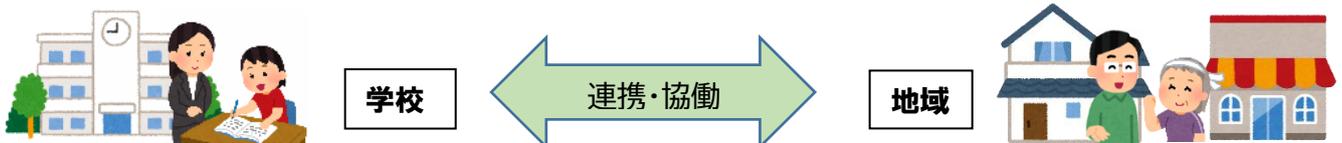
2018年～ 全国体験活動ボランティア活動総合推進センター コーディネーター

日本ボランティア学習協会 常任理事



1 講義

(1) 学校と地域の効果的な連携・協働と推進体制



・学校と地域が連携する際には、対等で双方向の連携が理想的です。

・学校を核に、より多くの、より幅広い層の地域住民、団体等が参画し、「**緩やかなネットワーク**」を形成することが大切です。

ガチガチではなく！

・育てたい子ども像・つくりたい地域像などの目標をともに共有し熟議することが必要です。

学校支援活動から地域学校協働活動へ

「支援」から「連携・協働」にするための3本の柱



どれも大事なことです！

- 地域とともにある学校
学校観の転換・地域と一体になって子どもたちを育む
- 子どもも大人も学び合い育ち合う教育体制の構築
地域の諸団体が連携, 学校・家庭・地域の相互協力, 地域全体で学びを展開する
- 学校を核とした地域づくりの推進
学校を地域の繋がり場ととらえる

連携・協働で育つ子どもたちはどう変わるのでしょうか？

【支援によって育つ子どもたち】地域に愛される子どもたち

- ・地域の大人の愛情を受けて、自分に自信をもつ子ども
- ・地域の愛情を受けて他者を思いやる子ども
- ・地域の大人への信頼感をもつ子ども
- ・自分の故郷に誇りを持ち、故郷の一員であると自覚する子ども



【連携・協働によって育つ子どもたち】子どもたちの学びの変化と成長

* 地域で学び、多様性を理解する子ども

* 体験的に学び、ボランティア活動により心が成長する子ども

3つの心の成長: 自分に向かう心・他者に向かう心・社会に向かう心

* 子どもたちの学びの変化: コミュニケーション力・課題意識力・企画計画力・調整力・発信力

たくさんの人（障がい者や外国人、多世代の人）と出会うことが大切です！

自己効力感

「私たちは地域を変えられる」、「自分はこの地域にとって大切なんだ」という意識をもつことができます。

地域で育てたいこれからの子どもたちが育つ

これからの地域に必要なことを考える機会に繋がる

連携・協働で子どもたちを育てることは大切なんだ！



地域学校協働活動の実践として

地域の**教育資源【地域の宝】**を活用した学習プログラム

産業・企業： 伝統産業、地場産業、各種企業、商店街、農業など

文化・歴史： 伝統芸能・料理、史跡、神社・仏閣など

自然・環境： 森林、河川、生物、里山など

人・団体： 文化人、経済人、社会福祉法人、企業、各種ボランティア団体、NPO など

コーディネートのポイント

- ・地域の教育資源の理解は地域を知る人たちの役割
- ・既存の行事や活動の意味を問い直す【意識化・価値づけ】
- ・学校のカリキュラムに沿ったコーディネートとプログラムづくり
- ・中学校区内の連携・自治体単位での連携(教育資源やプログラムの共有・相互提供など)

地域活動は、横に連携することが大切です！

地域の課題を地域で考える(地域の中に学校はある…)

- ・少子高齢化・人口減少・認知症高齢者などの課題、地縁のつながりの希薄さ
⇒ 地域福祉は子どもから大人までの課題
- ・安心・安全・防犯・防災 ⇒ 子どもや高齢者の見守り・防災訓練での協力
- ・環境問題・ごみ問題 ⇒ 子どもとともに学び発信する
- ・地域の魅力の発信力不足・地域の誇りの喪失 ⇒ 地域学習【総合的学習・探求】の中での取り組み

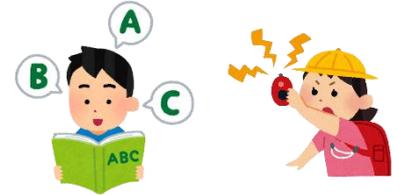
地域の様々な組織との連携で実施されている防災活動の事例

- ・地域との宿泊防災訓練を中学生がリーダーとして運営
- ・特別支援学校と地域高齢者施設合同の避難訓練 など



学校間での縦横の連携による活動事例

- ・高校生が小学生防犯教育・高齢者犯罪被害防止のための寸劇
- ・工業高校で中学生向けのクリエイティブ講座
- ・国際科の高校生が小学校の英語の授業の出前講座 など



(2) 推進員の活動

【推進員の役割と活動】

1. 全体の調整・総合・進行などを担当する
2. 人と人とのつながり・それぞれの役割をつくる
人を活かす ⇒ 活動の楽しみを作り出す

【推進員に必要なこと】

1. 地域・学校の思いを知る
2. 地域の資源や課題を熟議し、共有する
3. 連携や協働ができる団体・組織・人をマッチング
4. 協力できる地域の団体・組織・人をつなぐ
5. 地域資源や情報の引き出しを共有する
6. 子どもを理解し、子どもの力を信じる

つなぐ

学校と地域との連携協働体制
地域の各種団体・社会教育施設など

語り合う＝熟議

目指す活動 目指す地域づくり
育てたい子どもたち
学校と地域の魅力探し
学校課題と地域課題
学校を核とした緩やかな地域のネットワークづくり

活動のコーディネート

計画立案、情報収集、
地域の施設・団体との連携、協働、日程調整
ボランティアの募集、登録、調整、研修
ボランティア活動の指針(心得)

ボランティア人材の活動

専門的人材 + 一般的人材 ⇒ 「幅広い人材, 活動の広がり」につながります。

専門的人材とは… 教科指導, 伝統文化芸能, 施設の補修など

一般的人材とは… 教科補助, 通学安全指導, 花壇整備, パトロールなど



★ボランティア参加のポイントは、「活動の継続性を旨とする」「より多くの住民の参画チャンスをつくる」ことです！

そのために

ボランティアの楽しさ・喜びを意識するための工夫

- ・ボランティアの方への感謝の会や活動内容を知らせるお便りなどを作成し、活動を見える化・発信することで、ボランティアをとoshi達成感や自信が得られるようになる。
- ・活動を通じた交流・仲間づくり・居場所づくりがしやすい活動場所や環境を整備する。
- ・児童・生徒とともに学校目標や地域課題について考えることができるような時間をつくる。

(3) 活動事例

○幸ヶ谷共育倶楽部(横浜市立幸ヶ谷小学校)

・ボランティア登録者が300名います！(状況は1回参加～50回以上の参加まで様々です)

？なぜ、300名も集まるのでしょうか？

⇒・教員のサポートは「子どもたちにとってプラス」ということを発信

上手に発信
しています！

・ボランティアの方にとっては、活動の励みになるように工夫

・校外の様々なつながりを活用できるよう、他校のコーディネーターと連絡会を作り、常に情報交換をしている

・活動実績を見える化する報告書の作成(継続性・広報の効果)

○東山田中学校区地域学校協働本部(横浜市立東山田中学校と3つの小学校)

・地域が中心となり中学生のキャリア教育を実施しています！

？どのように実施しているのでしょうか？

⇒・あらゆる職業の方をお招きして、「働く」ということや体験を語ってもらう活動の実施

・3日間の職場体験を実施

・地域の重鎮の方に依頼し模擬面接を実施

地域のつながりを
上手に活用しています！

そして、キャリア教育に関わっていただいた地域の方、企業、教員、保護者等を一堂に会し、異業種交流を図るとともに意見交換を行っています。

2 ワークショップ

「地域で育つ子どもたちのために地域の宝を生かして学ぶ」をテーマに5班に分かれてワークショップを行いました。各班でワークⅠ「育てたい子どもたち」、ワークⅡ「宇都宮のお宝を子どもたちに伝えたい」について、意見を出し合い発表しました。

地域で育てたい子どもたちを実現するために、「地域や学校の自慢」を持ち寄り、子どもたちと一緒に学び合えるような活動を考えました。また、その活動を進めるにあたって、どんなところと連携できるかを考えました。

ワークⅠ

1班

・人の気持ちが分かる子 ・地域を大切に思える子
・交通ルールを守る子 ・自分の良さを実感できる子
・失敗にもくじけない子 ・奉仕の心がある子

ワークⅡ

・自衛隊や高校と連携して学校キャンプを実施したり、地域の清掃活動を子どもたちに募って実施したりしている。地域によってできること・できないことや難しいこともある。

育てたい子ども像や何ができるかを話し合いながら、できないことを無理してやるのではなく、子どもも大人もできないことはみんなで助け合いながら、「学び合う」ことを意識した活動を実施していきたいですね。



ワークⅠ

2班

・コミュニケーション力のある子
・地域を大切にする子
・思いやり、多様性への理解がある子
・自立した子

ワークⅡ

・地域のお祭りやイベントをとおして、学校間の連携にとどまらず、老人ホームや障がい者支援施設などとも協力し、活動を行いたい。映画会、餅つき大会、ウォークラリーを実施して安全マップを作るなど、いろいろな活動を行いたい。

お祭りが人のつながりをゆるやかにつくる。ついでに、防災のことを考えるきっかけになる。そういう「ついで」をつくるのも大事なことです。

ワークⅠ

- ・自分で行動できる子
- ・思いを言葉にできる子
- ・あいさつができる子



3班

ワークⅡ

・“食”からつながりが大切だと思うので、農家と連携した体験活動を行い、農家の方が大事にしていることを地域に広げたい。その際にLRTなども活用できると良い。

“食”をきっかけにした地域学校協働活動は多く行われている。例えば、スーパーマーケットと連携し、子どもたちと地域の特産品を使ったお弁当の開発や販売を行う事例などもあります。



ワークⅠ

- ・自主性・自立性のある子
- ・あいさつができる子
- ・朝、自分で起きられる子
- ・探求心のある子
- ・人の気持ちが分かる子
- ・多様性への理解がある子
- ・グローバルな視点のある子
- ・地域との交流ができる子
- ・積極性のある子
- ・スマホやゲームに依存しない子
- ・金銭的に自立した子



5班

ワークⅡ

・比較的田園地帯の広がる地域からのメンバーが多いため、虫を育てる活動や農家と連携した活動、地域の方から蓮を寄付してもらい、育てて給食に取り入れたなどの事例があり、自然を生かした活動を行っていききたい。

地域の特性がきちんと把握された上で、良い活動が行われていく。体験的な活動の重要性を大人が考えていくことが大切ですね。



ワークⅠ

- ・元気な子
- ・自分で考える子
- ・人の言葉に耳を傾ける子
- ・思いやりのある子



4班

ワークⅡ

・地域のお祭りや清掃活動、地域のガイドブックなど様々な活動を子どもたちに知ってもらいたい。地域の様々な立場の人たちと連携するために、皆の考えをまとめ、協力して活動をつくることで、育てたい子ども像の実現につながるのではないかな。

「育てたい子ども像」を目標にして考えることは大切ですね。つながりがあることが、「こういう子どもたちを育てたい」という気持ちにつながっていく。子どもたちを育てることと、地域をつくることは天秤の両方にあるようなものですね。

3 アンケートの主な意見・感想

- ・講義の中での全国的な活動事例がとても参考になり、たくさんのヒントをもらえた。
- ・ワークショップをとおり、ほかの地域の活動を知ることによって、自分だけでは浮かばない多くのアイデアを得ることができた。
- ・きれいな施設で、会場も広くのびのびと意見交換ができてよかった。
- ・大坪先生がこれまで活動してきた体験談をもっと聞きたかった。
- ・せっかくの機会なので、もう少し情報交換する時間がほしい。
- ・午後はほかの活動や子どもの帰宅時間とも重なってしまうため、早めの時間に開催してほしい。
⇒今回は外部の講師の方をお願いした関係で午後の開催となりましたが、今後は早めの時間の開催に努めてまいります。

◇研修会参加のみなさま◇

研修会へのご参加をありがとうございました。限られた時間の中での熱心な話合いや発表などにご理解・ご協力をいただいたおかげで、研修会を円滑に実施することができました。今回いただきましたご意見を参考に、今後もみなさまの活動に役立つ研修会の開催や情報発信に努めてまいります。

お知らせ

2月の実績報告会では、資料の作成や提出などにご協力をいただき、誠にありがとうございました。実績報告会后に提出が必要な書類については、個別にご連絡をさせていただいているところですが、引き続きよろしくお願いたします。

【実績報告会を終えて、改めてお伝えしたいこと】

- ・ 委託料での購入には日付・品名・数量・単価の分かるものが必要です。領収証＋納品書以外でも、小売店のレシートでも構いません。口座振込・コンビニ支払も可能です。支払手数料は「役務費」として支出してください。
- ・ クレジットカード・キャッシュレス決済・ポイントカードは使わず、現金や口座振込で支払ってください。委託料での購入でポイントを得ることはできません。使ってしまった場合はご相談ください。
- ・ 定例会議の水・お茶のボトルは、「年度内かつ賞味期限内での開催予定回数×委員人数」の本数まで事前にまとめ買いしていただくこともできます。購入・使用の履歴は、「水・お茶の確認表」に記録をお願いします。
- ・ 出納簿の日付は、実際に相手方に支払った日を記載してください。（例えば、小売店で購入する場合であれば、レシート等に記載のある日。納品が先にあり、後日口座振込を行う場合であれば、相手方に振り込まれた日。）
- ・ 講座の講師や地域未来塾の学習支援員に対して謝金を支払う際には、所得税の控除と納付が必要です（相手先が法人の場合を除く）。謝金の支払いが完了しましたら、謝金受領書（様式第10号又は10―2号）のコピーを生涯学習課に使送にて提出してください。後日、納付書を学校宛てに送付しますので、届き次第速やかに納付してください。
- ・ そのほか、委託料の留意点などについては、「事務の手引き」に詳細が載っていますが、もし悩むことや迷うことなどがありましたら、お気軽に生涯学習課にお問い合わせください。なお、手引きや様式の改訂がある場合には、6月までにお知らせします。

【CSモデル校について】

モデル校の選定にあたり、各協議会でもご検討いただきありがとうございました。

1月に清原南小、雀宮南小、一条中、河内中をモデル校に指定し、委員の委嘱や研修会を行いながら、令和7年度からの事業実施に向けて準備を進めているところです。

今後は、学校運営協議会の権限や協議の手法、魅力協への影響等を検証しながら、各魅力協の活動の充実につながるよう進めてまいります。

お問い合わせ・通信の感想やご意見など：宇都宮市教育委員会事務局

生涯学習課 電話 028-632-2648 メール u4606@city.utsunomiya.tochigi.jp

学校教育課 電話 028-632-2728 メール u4602@city.utsunomiya.tochigi.jp